

## 2 地理歴史

### (1) 改訂のねらい

- ア 小、中学校社会科との接続はもちろん、高等学校公民科との関連も踏まえ、学校種の違いによる発達段階や分野の特質に応じて、柱書と三つの資質・能力からなる目標を設定した。その際、社会の変化に伴い、地理歴史科学学習に求められる状況などを踏まえ、改善を図ることとした。
- イ 各科目の内容については、その項目ごとに生徒が身に付けることが期待される資質・能力を三つの柱に沿って示すこととしつつも、「学びに向かう力、人間性等」については、教科及び科目目標において全体としてまとめて示し、項目ごとには内容を示さないことを基本とし、記述することとした。
- ウ 内容の改善・充実に関わっては、共通必修科目である「地理総合」、「歴史総合」と選択科目である「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」間の関連付けとともに、小・中学校社会科や公民科との関連付けを図りながら、適宜その内容を各科目に振り分け、その具体化を図ることとした。
- エ これまで言語活動の充実などの形で教科を超えて図られてきた学習活動の改善が、引き続き「社会的な見方・考え方」を働かせる中で、地理歴史科ならではの「問い」として設定され、社会的事象に関わる課題を追究したり解決したりする活動が取り入れられることによって実現することが求められる。このことに関しては、各科目に共通する留意事項として位置付けることとした。

### (2) 科目編成

- ア 科目編成と標準単位数は、次のとおりである。

| 科 目 （標準単位数） |       |
|-------------|-------|
| 地理総合        | （ 2 ） |
| 地理探究        | （ 3 ） |
| 歴史総合        | （ 2 ） |
| 日本史探究       | （ 3 ） |
| 世界史探究       | （ 3 ） |

- イ 地理歴史科は、「地理総合」と「歴史総合」をいずれも全ての生徒に履修させることとし、その「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、同じく「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できることとした。また、標準単位数については、必修科目「地理総合」、「歴史総合」はいずれも2単位とし、「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」はいずれも3単位とした。このうちの「探究」の名を付した三つの科目は、必修科目で学んだことを生かしながら、更に深い学習を行う科目として位置付けている。
- ウ 各科目の改善・充実の要点は次の通りである。

#### 〔地理総合〕

- ① 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 地図や地理情報システムを活用して育む汎用的で実践的な地理的技能
- ④ グローバルな視座から求められる自他の文化の尊重と国際協力
- ⑤ 我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災
- ⑥ 持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望

〔地理探究〕

- ① 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 大項目Cの前提としての系統地理的考察と地誌的考察
- ④ 「現代世界の系統地理的考察」における「交通・通信、観光」の項目化
- ⑤ 「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を問う探究項目の充実

〔歴史総合〕

- ① 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- ④ 歴史の大きな変化に着目し、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える内容の構成
- ⑤ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- ⑥ 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する学習

〔日本史探究〕

- ① 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- ④ 「歴史の解釈、説明、論述」を通じた知識、概念の深い理解と「思考力、判断力、表現力等」の育成の一層の重視
- ⑤ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- ⑥ 歴史的経緯を踏まえた現代の日本の課題の探究

〔世界史探究〕

- ① 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- ② 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ③ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- ④ 世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉える内容の構成
- ⑤ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- ⑥ 歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題の探究

(3) 科目の内容

ア「地理総合」

- (ア) ①持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察することに加えて、②グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察することと、③地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することの三点を科目の主要な特徴として構成することとした。
- (イ) 大項目AからCまでで構成し、このうち大項目Aでは現代世界を捉えるための地理的技能の習得を、大項目Bでは現代世界の多様性や諸課題に関する理解を、大項目Cでは我が国の持続可能な社会づくりに関する地理的認識を、それぞれ主な学習内容とした。
- (ウ) 大項目Aは、学習の導入として以降の学習の基盤となるよう、「現代世界の地域構成」を概観するとともに、「地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける」学習活動を位置付けた。
- (エ) 作業的で具体的な体験を伴う学習をより一層重視して、様々な諸課題を日常生活と関連付けて取り扱い、地理的技能を身に付けるとともに、地理学習の有用性に気づき、学

習意欲を高めることに配慮した内容や方法を工夫した。

- (オ) 「持続可能な社会づくり」の観点から、大項目Cの(2)を「地理総合」の学習の集大成と位置付け、実際に観察や野外調査、文献調査などを行うことによって、そこに存在する地理的な課題を見だし、その解決策、改善策を考察、構想する学習を設定した。

#### イ「地理探究」

- (ア) 「地理総合」の学習を前提に、地理の学びを一層深め、生徒一人一人が「生涯にわたって探究を深める」その端緒となるよう、系統地理的学習、地誌的学習を行う各大項目の学習によって地理学の体系や成果を踏まえた上で、最後に我が国の地理的な諸課題を探究する大項目を設けて科目のまとめとして構成することとした。
- (イ) 大項目Aでは現代世界における地理的な諸事象の規則性や傾向性の理解を、大項目Bでは現代世界の諸地域の構造や変容の理解を、大項目Cでは現代世界におけるこれからの日本に求められる国土像に関する地理的認識を、それぞれ主な学習内容とした。
- (ウ) 「現代世界の系統地理的考察」の「自然環境」、「資源、産業」、「人口、都市・村落」、「生活文化、民族・宗教」の項目構成を見直し、従来の「資源、産業」から人や物、情報などの動きを支える社会資本や産業に関わる諸事象を取り出し、交通地理学や観光地理学などの研究成果を踏まえてその規則性や傾向性を考察する新たな中項目として「交通・通信、観光」を位置付けた。
- (エ) 従前の「地理B」では大項目(3)の「現代世界の地誌的考察」を構成する三つの中項目の一つという位置付けであった「現代世界と日本」における探究的な学習を充実させ、大項目Cの「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を構成する唯一の中項目である「持続可能な国土像の探究」として重点化を図ることとした。
- (オ) 大項目A及びBは、大項目Cの「持続可能な国土像の探究」を図る上での前提であり、科目のまとめとして行われる「探究」のために適切に時間配当がなされるためにも、そこで取り扱う主題を見据えて、系統地理的考察で取り上げる事象、地誌的考察で取り上げる地域を重点化するなどといった工夫を図る必要がある。

#### ウ「歴史総合」

- (ア) 従前の歴史領域の科目のねらいを総合的に踏まえつつ、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から歴史を捉える科目として内容を構成した。
- (イ) 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を社会の形成者となる生徒が主体的に考察、構想できるように配慮し、この科目の導入として歴史を学ぶ意義や歴史の学び方を考察する大項目A「歴史の扉」、近現代の歴史の大きな変化に着目した大項目B「近代化と私たち」、大項目C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」、大項目D「グローバル化と私たち」の四つの大項目を設定した。
- (ウ) 大項目B、C及びDでは、社会的事象の歴史的な見方・考え方や資料の取扱いに関する基本的な技能を活用して、生徒が資料から課題を見だし、自ら学習を深めることができるように、それぞれ中項目(1)から(4)を設定し、一連の学習の展開を構成した。
- (エ) 大項目B及びCの中項目(4)では、現代的な諸課題の形成に関わる歴史の理解を図る学習を、大項目Dの中項目(4)では、生徒が自身の関心をもとに主題を設定し、歴史的な経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解したり、考察、構想したりする学習を設定した。

#### エ「日本史探究」

- (ア) 「歴史総合」の学習で獲得した技能や歴史の学び方を活用し、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、歴史的経

緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する趣旨から「A 原始・古代の日本と東アジア」、「B 中世の日本と世界」、「C 近世の日本と世界」、「D 近現代の地域・日本と世界」の四つの大項目によって構成した。

- (イ) 大項目AからCまでの前近代の学習では、「歴史総合」で育んだ「歴史の学び方」を活用しつつ、多様な資料を効果的に活用して、問いや仮説を立てて歴史を考察、表現し、我が国の歴史の展開や伝統と文化への理解を深める学習、更に大項目Dの近現代の学習では、「歴史総合」で獲得した概念やこの科目の前近代の学習とのつながり、前近代の学習で成長させた歴史を考察する力を活用し、歴史に関わる諸事象相互の関係性や、地域と日本、世界との関係性などについて整理して構造的に理解し、更に現代の日本の諸課題について多面的・多角的に考察、構想する学習を設定している。したがって、「内容のA、B、C及びDは、この順序で扱う」（内容の取扱い）ことが大切である。
- (ウ) 大項目A、B及びCの中項目(3)に示された（歴史の解釈、説明、論述）については、従前の「日本史B」に中項目として設定されていた「歴史の解釈」、「歴史の説明」、「歴史の論述」を引き継ぐとともに、その趣旨を一層充実させた。資料から歴史に関わる事象を解釈したり、説明したり、論述したりする学習を取り入れて、繰り返しそれを行うことで、習得した知識や概念のより深い理解を図ること、思考力、判断力、表現力等の一層の育成を図ることとした。

#### オ「世界史探究」

- (ア) 生徒が世界の歴史の大きな枠組みと展開への理解を深め、地球世界の課題について探究するという趣旨から、大項目A「世界史へのまなざし」、大項目B「諸地域の歴史的特質の形成」、大項目C「諸地域の交流・再編」、大項目D「諸地域の結合・変容」、大項目E「地球世界の課題」を設定した。この五つの大項目を通して、地球世界につながる諸地域の社会や文化の多様性や複合性について段階的に考察を深めるような構成となっている。
- (イ) 大項目Aについては、科目の導入的性格を有するものであり、中学校社会科との接続や「歴史総合」で習得した成果に配慮し、人類の生存基盤をなす自然界に見られる諸事象や日常生活に見られる諸事象を扱う。「歴史総合」に比較して、広い空間軸、長い時間軸を扱うこの科目の特色、意味や意義を考察、理解し、世界史学習の導入とする。
- (ウ) 大項目Bでは歴史的に形成された諸地域の多様性、大項目Cでは諸地域の複合的・重層的なつながり、大項目Dでは地球規模での一体化と相互依存のさらなる強まりを、それぞれ諸資料を活用して読み解き、世界の歴史の大きな枠組みと展開に対する理解を深め、大項目Eの探究活動の充実につなげていく。このような一連の学習活動を通して、地球世界につながる諸地域の社会や文化の多様性や複合性について段階的に考察を深めるような学習の一層の充実を図った。
- (エ) 大項目Eの中項目(1)から(3)は、概ね20世紀後半から歴史的に形成されてきた「地球世界の課題」を扱い、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質を考察し、中項目(4)は、(1)から(3)の学習や「歴史総合」で学習した「世界との中の日本」における現代的な諸課題の形成を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、①紛争解決や共生、②経済格差の是正や経済発展、③科学技術の発展や文化の変容の中から、生徒自身が課題意識に基づく主題を設定して探究する学習として位置付けた。科目全体のまとめとなっている(4)の学習が充実するように、年間指導計画に基づいて、内容のつながりに留意した指導計画の作成を行うことが大切である。

#### (4) Q & A

Q 1 地理歴史科の各科目の履修やその順序に関して、配慮すべきことは何か。

「地理総合」、「歴史総合」は全ての生徒に履修させる科目である。また、「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できる。この履修の順序は、教科の系統性に基づき、後に履修する科目の内容が前に履修する科目の内容を前提として定められていることによる。したがって「地理総合」と「地理探究」を並行して履修したり、「歴史総合」と「日本史探究」又は「世界史探究」を並行して履修したりすることはできない。こうした地理歴史科の基本的な構造に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成する必要がある。

なお、「地理総合」と「歴史総合」の履修の順序については特に定められていない。

Q 2 地理歴史科の各科目が新設されたのはなぜか。

地理歴史科がこれまで「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め」として掲げてきたねらいを踏まえ、時間認識と空間認識をバランスよく総合する人材育成を目指す科目構成が検討された。また、高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生徒一人一人を生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に重要であることが強く指摘された。そこで、地理歴史科の科目構成としては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育むという観点から、地理歴史科を構成する空間軸と時間軸をそれぞれ学習の基軸とする「地理総合」と「歴史総合」をいずれも必修科目として位置付けるとともに、これに加えて、生徒一人一人を生涯にわたって探究を深める未来の創り手として育むという観点から、「探究」をその科目名に含む「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」を、生徒自身の興味・関心を踏まえて選ぶ選択科目として設置することとした。

Q 3 地理歴史科の各科目における指導計画の作成に当たって、どのような点に配慮すべきか。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが重要である。

「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学習の過程を組み合わせる授業を考えることは、その前提となる「何ができるようになるか」を明確にすることともに、授業改善の主要な視点として重要である。また、カリキュラム・マネジメントの側面からも、地理歴史科の各科目の教育内容を、科目間のみならず教科等横断的な視点で組織的に配列するためにも、単元という形で内容や時間の一定のまとまりを単位として組み立てていくことが大切である。

地理歴史科は中学校社会科の学習の成果の上に成り立っていること、公民科の各科目と相互に関連する部分が多いことなどの点も考慮して、指導計画を作成するよう留意することが大切である。

Q 4 地理歴史科において「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るためには、どのような点に配慮すべきか。

「主体的・対話的で深い学び」については、授業改善の考え方として捉えることが重要である。これまでも言語活動の充実などの形で授業改善が図られてきたが、引き続き科目の特質に応じた「社会的な見方・考え方」を働かせる中で、地理歴史科ならではの「問い」として設定され、社会的事象に関わる課題を追究したり解決したりする活動を取り入れることによって実現することが求められる。

そのためには、単元など内容や時間のまとまりの中で、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって、他者と協働的に諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考、判断、表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った資質・能力は、いずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考、判断、表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成され则认为られるからである。

Q 5 「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ」とはどういうことか。

「社会的事象の地理的な見方・考え方」については、平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、「社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付けなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること」とし、考察、構想する際の「視点や方法（考え方）」として整理された。これは、平成21年改定時に以下のとおり整理してきたものを今回の改訂においてもその趣旨を引き継ぐものである。

(参考)

#### 「地理的な見方」の基本

どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで捉え、地理的事象として見いだすこと。また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性が見られるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。

#### 「地理的な考え方」の基本

そうした地理的事象がなぜそこでそのように見られるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付けなどと人間の営みとの関わりに着目して追究し、捉えること。

その上で、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ」とは、地理学習の特質を示している。すなわち、事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりするということであり、また、それを用いることによって生徒が獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用したりするというものである。

Q 6 地理領域の各科目の改善・充実の要点に示されている『主題』や『問い』を中心に構成する学習の展開」とはどういうことか。

生徒が「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせ、鍛えるためには、それを促す学習場面として、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせることができるような適切な「主題」や「問い」の設定が前提となる。地理領域科目においては、社会の情報化、グローバル化に伴って日々生まれては消えていく膨大な数の事象の名称や仕組みを単に覚えるのではな

く、選び出した真に必要な事象を基に、位置や空間的な広がりなどに着目して、その事象がそこにある意味や意義を見いだして追究したり、我が国が抱える地理的な課題の解決の方向性を、生徒自身が批判的思考力を働かせて議論したりするような学習活動を展開することが重要である。

各校においては、生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」やそれに基づく「問い」を立て、それらを中心に学習活動を構成することが重要である。

Q 7 地理領域科目の学習で身に付けることとされている地理的技能とはどのようなものか。

地理的技能については、地理情報（地域に関する情報のことであり、地理的な事象が読み取れたり、地域的特色に結び付く事象を見いだしたりすることができる資料のことをいう）を「収集する技能」、「読み取る技能」、「まとめる技能」の三つの技能に分けることが考えられる。具体的にそれらの内容を示すとすれば、おおむね次のようになる。

- ① 情報を収集する技能（手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能）
  - a 調査活動を通して（例えば、現地の様子などを直接観察するなどして情報を収集したり、現地の行政機関などから聞き取りをするなどして情報を収集したりする技能）
  - b 諸資料を通して（例えば、図書館などにある、地図や統計、写真などの文献資料、実物資料を通して情報を収集したり、情報通信ネットワークなどにあるデジタル化された資料を通して情報を収集したりする技能）
  - c 情報手段の特性や情報の正しさに留意して（例えば、統計の出典、作成者などの事実関係に留意して情報を収集したり、主題図の作成意図、作成過程などの作成背景に留意して情報を収集したりする技能）
- ② 情報を読み取る技能（収集した情報を社会的事象の地理的な見方・考え方に沿って読み取る技能）
  - a 情報全体の傾向性を踏まえて（例えば、位置や分布などの広がりから全体の傾向性を踏まえて情報を読み取ったり、移動や変化などの動向から全体の傾向性を踏まえて情報を読み取ったりする技能）
  - b 必要な情報を選んで（例えば、地図から目的に応じた情報を選んで読み取ったり、諸統計から信頼できる情報を選んで読み取ったりする技能）
  - c 複数の情報を見比べたり結び付けたりして（例えば、同一地域の異なる情報を比較、関連付けて読み取ったり、異なる地域の共通する情報を比較、関連付けて読み取ったりする技能）
  - d 資料の特性に留意して（例えば、地図の図法など資料の用途に留意して情報を読み取ったり、統計の単位、絶対値（相対値）など資料のきまりに留意して情報を読み取ったりする技能）
- ③ 情報をまとめる技能（読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能）
  - a 基礎資料として（例えば、聞き取りの結果などを正確に記録にまとめたり、収集した統計を汎用性のある表に加工してまとめたりする技能）
  - b 分類・整理して（例えば、データをその性格によって分類してまとめたり、データをその利用の可否によって取捨選択してまとめたりする技能）
  - c 情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して（例えば、文書などの情報を地図化、グラフ化し概観できるようまとめたり、地図やグラフなどの情報を文章にして解釈、説明してまとめたりする技能）

これらの技能は、小・中・高等学校の学習において広く共通するものであり、一度にそれらの技能の全てを養おうとするのではなく、生徒の習熟の様子を踏まえて着実に身に付くよう、繰り返し指導する機会を設けることが大切である。

Q 8 「地理探究」は、「地理総合」とどのような関連があるか。

「地理探究」は、「地理総合」の履修を前提としており、「地理総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する科目である。

地理的技能は既述のとおり、一度の学習や経験で身に付くというものではなく、それに関わる学習を繰り返す中で、次第に習熟の程度を高めることで身に付けるものである。このため、指導計画を作成する際に、地理的技能の難易度や段階性などに留意して系統的に学習できるよう工夫する必要がある。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、「地理総合」における学習の成果を生かし、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫することも大切である。

Q 9 「社会的事象の歴史的見方・考え方を働かせ」とはどういうことか。

社会的事象の歴史的な見方・考え方については、平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付け」て働かせる際の「視点や方法（考え方）」であると整理した。すなわち、時期、年代など時系列に関わる視点、展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点、類似、差異など諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用など事象相互のつながりに関わる視点、現在とのつながりなどに着目して、比較したり、関連させたりして社会的事象を捉えることとして整理された。

その上で、「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ」とは、各科目の学習の特質を示している。すなわち、時期や推移などに着目して因果関係などで関連付けて捉え、「歴史総合」においては、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史について考察したり、歴史に見られる課題や現代的な諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想したりすること、「日本史探究」においては時代の転換の様子や各時代の特色を考察したり、歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想したりすること、「世界史探究」においては世界の歴史の大きな枠組みと展開を軸に、歴史に関わる事象の意味や意義を考察したり、歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想したりすることである。また、それを用いることによって生徒が獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用したりするということである。

Q 10 歴史領域の各科目の改善・充実の要点に示されている「『主題』や『問い』を中心に構成する学習の展開」とはどういうことか。

生徒が「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせ、鍛えるためには、それを促す学習場面として、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることができるような適切な「主題」や「問い」の設定が前提となる。歴史領域科目においては、歴史に関わる事象を単に記憶するのではなく、事象の意味や意義を見だし、学習のねらいを明確にして、課題を追究する学習の構成を図ることが求められている。



例えば、「歴史総合」の大項目BからDにおいて、中項目(1)では学習内容への見通しをもたせる「問い」を表現する学習、中項目(2)と(3)では、主題を設定し、それを踏まえた課題(問い)を設定して展開する学習、中項目(4)では、主題を設定し、現代的な諸課題の形成や現代的な諸課題を考察、構想する学習となる。

特に、生徒が「問い」を表現する過程においては、単なる驚きや素朴な問いの表現にとどまらず、生徒が資料から読み取った歴史についての事象それ自体への問いを表現する中で、後に続く学習内容に対する課題意識を育むことが必要である。

各校においては、生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」やそれに基づく「問い」を立て、それらを中心に学習活動を構成することが重要である。

Q11 「日本史探究」は、「歴史総合」とどのような関連があるか。

「日本史探究」は、「歴史総合」の履修を前提としており、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。

内容の取扱いにおいても、「中学校までの学習や『歴史総合』の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって我が国の歴史の展開を学習できるよう工夫すること」とあるように、小学校では、我が国の歴史の主な事象を人物の働きや代表的な文化遺産を中心に学習し、中学校社会科歴史的分野においては、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に学習する。「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学習する。「日本史探究」においては、これらの学習の成果を踏まえ、事象の結び付けや広がり、関係性などを一層重視して扱い、生徒が現代の社会や自身との関わりなどから、興味・関心をもって学習に臨むことができるように指導を工夫することが大切である。

また、特に近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」での近現代史の学習の成果を十分に活用し、我が国の近現代の歴史について、世界の各国や他の地域との歴史の関係を踏まえた具体的な考察ができるように指導を工夫することが重要である。

Q12 「世界史探究」は、「歴史総合」とどのような関連があるか。

「世界史探究」は、「歴史総合」の履修を前提としており、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目である。

生徒は、「世界史探究」の学習に至るまで、小学校社会科において、我が国の歴史の主な事象を人物の働きや代表的な文化遺産を中心に、中学校社会科歴史的分野において、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に学習を重ねている。また、「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学習する。「世界史探究」においては、これらの学習の成果を踏まえ、具体的な歴史に関わる事象に豊かに触れることができるようにするとともに、事象の結び付けや広がり、関係性などを一層重視して扱い、生徒が現代の社会や自身との関わりなどから、興味・関心をもって学習に臨むことができるように指導を工夫することが大切である。その際、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないよう

に留意することが重要である。

また、特に近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」での近現代史の学習の成果を十分に活用し、世界の歴史の大きな枠組みと展開について、日本の歴史と関連付けながら客観的かつ公正な資料に基づいて具体的な考察ができるように指導を工夫することが重要である。